

## 低学年向け★おすすめの本

本のなまえ	書いたひと	出版社	請求記号
パパはステキな男のおばさん	石井 睦美/文	BL出版	913/1/
まりのパパは家において、おそうじ、おせんたく、りょうりをする。ママはおけしようして、会社に行く。おやつを作ってくれて、いっしょにあそんでくれるパパがだいすきだけど、ともだちに「まりちゃんのパパ、女みたい」と、わらわれてしまい…。			
ぼうけんはバスにのって	いとう みく/作	金の星社	913/1/
夏休み、ばーちゃんのいえまで、はじめてひとりで行くことになったタク。こうそくバスにのって、しゅっぱつ！ つい、ねむってしまい、目がさめてピンチ…！ おりるていりゅうじょを、とおりすぎていたらどうしよう…。ゆうきがためられるとき！			
ざりがにのおうさままっかちん	おおとも やすお/さく	福音館書店	913/オ/
みんな、ざりがにのことを「まっかちん」とよんでいる。てづくりのつりざおをもって、ともだちとまっかちんつりにやってきたのぞみ。でも、のぞみだけ、1ぴきもつれなくて…。「わたしは じぶんでつった まっかちんがほしいんだ！」			
つきーとカーコのけんか	おくはら ゆめ/作	佼成出版社	913/オ/
ねこのつきーとカラスのカーコは、赤ちゃんのときからの友だち。いつも いっしょに あそんでいる。けんかしても、すぐになかなおることができる。だけど、あるとき、ほうとうに あいてを きずつけることばを ぶつけあってしまい…。			
まえばちゃん	かわしま えつこ/作	童心社	913/カ/
ななこの口の中で、ぐらぐらゆれているのは まえばちゃん。まえばちゃんは ななこがこまっていたら、はげましてくれる。まえばちゃんとはなれたくなくて、ごはんをたべるとき、まえばちゃんをゆらさないようにきをつけていたのに、ぬけてしまい…。			
やっどライオン	きむら ゆういち/作	小学館	913/キ/
ビクビク森のライオンは ほんとうは よわ虫なのに、いえのそとでは、みんなをガツカリさせないように、つよいライオンのふりをしていた。だけど、おばけをみてしまったライオンは、びっくりしすぎて、じまんのたてがみが ぜんぶぬけてしまい…。			
おぼえているよおおきな木	佐野 洋子/作	講談社	913/サ/
おじさんの いえのまえに おおきな木があった。おじさんは いつも木のことを じゃまだと思っていた。ついに がまんができなくなり、おので 木をきりたおした おじさん。すっきりしたはずなのに、なんだか さびしくなってきた…。			
みどりいろのたね	たかどの ほうこ/作	福音館書店	913/タ/
みんなで えんどうまめのたねをまいていた まあちゃん。たねといっしょに あめだままで うめてしまう。土のなかは、さあたいへん！ たねたちから なかまはずれにされる あめだま。おこったあめだまは「ぼくをなめてみるがいい！」と…。			
あらしのよるのばんごはん	長崎 夏海/作	ポプラ社	913/ナ/
みなみのしまに ひっこしてきたばかりのミキ。たいふうがちかづくなか、とうさんは いえのまどに いたをうちつけ じゅんぴをした。よるになり、たいふうの中、ごはんを食べながら とうさん、かあさんのこえと、あめのおとに みみをすまます。			
あかいくま	中脇 初枝/作	講談社	913/ナ/
りかちゃんのともだちは、あかいくまの ぬいぐるみ。あかちゃんのときから ずっといっしょにいたので、りかちゃんは じぶんのことも あかいくまだと おもっていた。りかちゃんはほんとうに、くま？ かしいカラスに きいてみると…。			
しゅくだいさかあがり	福田 岩緒/作	PHP研究所	913/フ/
なんどやっても、さかあがりができないぼく。はらが立ってきて、おうえんしてくれた さとしに「うるさい」といってしまった。ひとりになり、もう一回やってみたけれど、やっぱりダメで…。もう さかあがりなんてどうでもいいとおもったけれど…。			
こんにちはといてごらん	マージョリー・W.シャーマット/作	童話館出版	933/フ/
バナッサは、はずかしがりやのねずみの女の子。学校にいても、友だちはいない。じゅぎょう中、先生のしつもんへの答えがわかって、はずかしくて手をあげることができない。「じぶんから こんにちはと いてごらん」とおかあさんにいわれて…。			
かえってきたさけ	フレッド・フレガー/文	文化出版局	933/フ/
川でうまれた さけのこどもは、海へでて大きくそだち、たまごをうむときがきたら、ふるさとの川にかえってくる。流れにさからっておよぎ、えさもたべず、ねむりもせず、かわかみにおかって、おびれをぼろぼろにしながらも、およぎつづける。			

本の名前	書いた人	出版社	請求記号
なんでももってる(?)男の子	イアン・ホワイブラウ/作	徳間書店	933/ホ/
お金もちのいえの男の子フライは、なんでももっている。じぶんのもっているおもちゃをしまんするために、ふつうのいえの子ビリーをつれてきた。だけど、ビリーのかっている犬のビュンビュンがどうしてもほしくなってしまったフライは…。			
おじいちゃん目、ぼく目	P・マクラクラン/作	文研出版	933/マ/
おじいちゃんは、目が見えない。朝になると、ぼくはお日さまがまぶしくてめざめるけれど、おじいちゃんはちがうだって。お日さまは、あたたかい光のゆびさきで そっとふれて、おじいちゃんをあたたためておこしてくれる。			
うちゅうはきみのすぐそばに	いわやけいすけ/ぶん みねお みつ/え	福音館書店	E/ウ/
じめんのうえから、うちゅうをめざして、すこしずつ、たかいばしょへ いてみよう。とりのとぶたかさ、タワーのたかさ、くものたかさ、ひこうきがとぶたかさ、そして、じんこうえいせいのとんでいるところまで。うちゅうとのつながりをかんじよう!			
おかあさんになるってどんなこと	内田 麟太郎/文 中村 悦子/絵	PHP研究所	E/オ/
こうさぎのミミちゃんは、ぬいぐるみのモコちゃんをだいていった。「きょうは、このこの おかあさんになるの」。ともだちのターくんがきた。「おかあさんになるって、どんなこと?」。「おかあさんになるって、こどものなまえをよぶことよ」。			
きつねのおきやくさま	あまん きみこ/ぶん 二俣 英五郎/え	サンリード	E/キ/
きつねはひよこにこえをかけ、いえにつれてくると、ごはんをあげた。ひよこがふとったら、がぶりとたべてやろうと思っていたのだ。だけど、ひよこから「しんせつなきつね」といわれ、うれしくなったきつねは、ひよこをたいせつにおもうようになり…。			
きのうをみつきたい!	アリソン・ジェイ/作・絵	徳間書店	E/キ/
たのしかったきのうにもどりたい! どうやったらもどれるの? ひかりよりもはやくうごけば、きのうにもどれるらしいけど、そんなにはやいのりものなんて、あるのかな? おじいちゃんに、きのうにもどるほうほうを きいてみると…。			
じめんのしたの小さなむし	たしろ ちさと/作	福音館書店	E/ツ/
じめんのしたで、やわらかな土をたべてくらしていた 小さなむし。ある日、シャベルでほり出され、うえきばちの中に入れられてしまう。なんとか うえきばちの底のあなから、じめんのしたににげだした小さなむしは、せいちょうし、はねをひろげ…!			
しんでくれた	谷川 俊太郎/詩 塚本 やすし/絵	佼成出版社	E/ツ/
わたしたち にんげんは、まいにち、たくさんものをたべて いくっている。どうぶつや、さかなのいのちをいただいて、いくっている。「いのち」や「いきる」ということについて、かんがえてみよう。			
そっといちどだけ	なりゆきわかこ/作 いりやまさとし/絵	ポプラ社	E/リ/
もうどうけんのステラのしごとは、目の不自由なあかねさんを守ること。あかねさんとであったのは、ステラが2さいのとき。10さいになり、ステラは まがりかどを あかねさんにしらせわすれたり、ミスをするようになり…。引退のときがきて…。			
ちきゅうのうえで いのちのたびのおはなし	沢田 としき/さく	教育画劇	E/チ/
いきものはじまりは うみのなか。ぎよるいがうまれ、やがて りくへ でていくものが あらわれた。そのなかから、きょうりゅうがうまれ、ほろびた。ほにゅうるいがうまれ、とりがうまれ、ながいながいたびをして、ひとのそせんがうまれた。			
ツリーハウスがほしいなら	カーター・ヒギンズ/文 エミリー・ヒュース/絵	ブロンズ新社	E/ツ/
きみは どんなツリーハウスがほしい? ひしめきあう木にかこまれた、そらにうかぶいえをおもいうかべてみよう。バルコニーをつくろう、ブランコもつけよう、ちいさなとしよかんもつくろう! よるは みんなでねぶくろにはいって、ほしをみよう!			
飛行機しゅっぱつ!	鎌田 歩/作	福音館書店	E/ヒ/
空港では、飛行機を飛ばすための特別な自動車がたくさんはたらいている。食べ物や燃料をつむための車、よごれた水をすい出す車、清掃係を機内に運ぶ車、そして、誘導路まで飛行機をおしていく車。たくさん車が力を合わせ、飛行機を飛ばす!			
ヒョウのハチ	門田 隆将/ぶん 松成 真理子/え	小学館	E/ヒ/
太平洋戦争のころ、中国にわたっていた日本のへいたいの成岡さんは、赤ちゃんヒョウと出会い、ハチという名をつけ、かわいがった。戦争がはげしくなり、成岡さんはハチを守るために日本の上野どうぶつえんにハチを受け入れてもらうことにしたが…。			
ぼくのウサギ	イヴォンヌ・ヤハテンペルフ/作	講談社	E/ホ/
アルノは えをかくのがすきな男の子。「ウサギくん、じっとしてて!」。ウサギくんのえをかこうとしたのに、いえのまどからにげだしてしまう。「ウサギくんは、じぶんのしたいようにしているだけなんだよ」とおじさんにいわれたアルノは…。			
みずやりとうばん	くすのき しげのり/作 あおき ひろえ/絵	廣済堂あかつき	E/ミ/
がっこうの やさいばたけの みずやりとうばんをわすれて、いえにかえってきってしまった なつみ。「おみずが ほしいね」「ひからびちゃうよ」と、やさいたちのこえが きこえてくるようで、おじいちゃんにそうだんすると…。			

## 中学年向け★おすすめの本

本のなまえ	書いたひと	出版社	請求記号
象のわたる川	横塚 眞己人/写真・文	岩崎書店	292/3/
<p>ボルネオ島を流れるキナバタンガン川。人々は川で体を洗い、洗濯をする。ゾウの群れが川をわたる。川のほとりにはユニークな形の熱帯植物が生え、たくさんの生き物たちが、それぞれの時間の流れの中を生きている。</p>			
もしも月でくらしたら	山本 省三/作 村川 恭介/監修	WAVE出版	446/7/
<p>もし人間が月に住んだら、どんな生活をするんだろう？ そのギモンに答えてくれる、少し未来のお話。月では、人間はバッタなどのこん虫を育てて食べる！？ 月でテニスをしたら、ふわふわジャンプができて、だれでもすごいせんしゅになれる！？</p>			
オレはどうくつ探検家	吉田 勝次/著	ポプラ社	454/3/
<p>ジャングルの奥の入口からどうくつに入る。せまい場所をはって進み、岩場をのぼり、水の中を歩き、高いところからロープを使っておりる。どろを掘って進むことだってある。はくかまんてんの写真をとっておして、吉田さんの探検をのぞいてみよう！</p>			
昆虫の体重測定	吉谷 昭憲/文・絵	福音館書店	486/3/
<p>1万分の1gからはかることのできる電子てんびんを使って昆虫の重さをはかってみよう、と思いついた吉田さんは、1200種類以上の昆虫の体重測定をしてきた。テントウムシは0.05g、1円玉の20分の1の重さだ。カブトムシは？ クワガタは？</p>			
ぼくの町に電車がきた	鈴木 まもる/文・絵	岩崎書店	516/1/
<p>山やがけが多く電車を走らせることがむずかしかった伊豆半島。1959年、ついに線路をしくことになった。日本中から3000人の人があつまり工事をした。トンネル工事で亡くなった人もいた。大工さんや電気屋さんなど、多くの人のおかげで、鉄道が開通した！</p>			
小さいのち まほうをかけられた犬たち	今西 乃子/文 浜田 一男/写真	金の星社	645/1/
<p>どうぶつあいごセンターでは、人間がすてた犬や猫がガスで殺される時をまっている。そんな命を守るため、ぷりんママは活動する。センターから犬を引き取り、愛情を注ぎ、体も心も元気にして新しい里親さんにたくす。ひとつでも、いのちをすくいたいー。</p>			
いのちをいただく	内田 美智子/文 諸江 和美/絵	西日本新聞社	648/9/
<p>坂本さんの仕事は、牛を殺してお肉にすること。明日殺される予定の牛に話しかけている女の子がいた。「みいちゃんば売らんと、みんなが暮らせんけん。みいちゃん、ごめんねえ」。明日は仕事を休もうと思った坂本さんに、息子がかけた言葉は…。</p>			
ああ無情 (こども世界名作童話)	ユーゴー/作 砂田 弘/文	ポプラ社	908/1/28/ ゼツリ
<p>まずしい家族のためにパンをぬすみ、19年間ろうやでくらしした男。ろうやから出たあとも町の人々のたいどはつめたく、宿もかしてもらえなかった。そんな中で出会った、ひとりの神父のやさしさと言葉が、それからの男の生き方を大きく変えていく。</p>			
いのちのあさがお コウスケくんのおくりもの	綾野 まさる/作	ハート出版	913/7/
<p>かけっこがとくいなコウスケくん、保育園の運動会ではいつも一等賞をとる元気な男の子だった。ところが六歳の時、白血病にかかってしまいー。病気とたたかい、七歳で亡くなったコウスケくんは、学校で育てたあさがおのたねをお母さんに残した。</p>			
おしゃべりなカーテン	安房 直子/作	講談社	913/7/
<p>カーテン屋さんをはじめたおばあさん。さいしょのお客さんに、「海にいるような気持ちになれるカーテン」を注文され、カーテンの色を考えていると…。「うすいレースを五まいかさねてごらん」と話しかけてきたのは、お店のまどの白いカーテン。</p>			
無人島で、よりよい生活!	いしいゆみ/作	岩崎書店	913/1/
<p>テレビショッピングが大好きなお母さんが買ったのは、小さな島！ お父さんと三人での無人島での生活がはじまった。バナナの木に電話がついているし、生活するには便利だけど、お父さんとお母さんがケンカしてしまい、台風もやってきて…家族のピンチ！</p>			
学校へ行こう ちゃんとりん	いとうひろし/作	理論社	913/1/
<p>あたしは毎日、毎日、ランドセルしょって学校へ行く。それって、何だかつまらない。たとえば、宇宙人にさらわれてユーフォーにのることになったら、学校に行かなくてすむのになあ。足もとを歩いているアリに、どこまでもついて行くのも面白そう…！</p>			
ビビを見た！	大海 赫/作	ブッキング	913/1/
<p>生まれた時から目の見えないぼく。ふしぎな声が出て「7時間だけ、世界が見えるようにしてやる」という。サイレンがなりひびくパニックの町で、目の前にあらわれたのは、傷ついた羽根をもった女の子…。かぎられた時間の中で、ぼくが見た世界とは。</p>			

本の名前	書いた人	出版社	請求記号
ココナッツ	大島 真寿美/作	偕成社	913/オ/
海でも川でもない、ビルの屋上で釣りをしているおじいさん。とびらと健太郎の目の前で、おじいさんはココナッツの実を釣り上げた…！ その実をもらったとびらたちが、公園の砂場に埋めてみたら芽が出てきて…。ふしぎな夏の時間がはじまる。			
ぼくの・トモダチのつくりかた	さとう まきこ/作	ポプラ社	913/サ/
転校してから友だちをつくれずにいるぼく。ひとりで歩く帰り道、ガレージのかべにつながれた大きな犬と出会う。なでようとしたら、古い毛布みたいなやなにおいがした。飼い主に大切にされていない犬に、リッキーというひみつの名前をつけたぼくは…。			
紳士とオバケ氏	たかどの ほうこ/作	フレーベル館	913/タ/
古い家にひとりでくらすマジメな紳士、マジヒコ氏。真夜中に目覚めたら、自分にそっくりの顔のオバケと出会う。「夜中の十二時までがあなたの時間、それからはわたしの時間なんですよおー」というオバケ。やがて二人は文通をはじめて…。			
おいなり山のひみつ	茂市 久美子/作	講談社	913/モ/
日曜日ヤマナシのシロップを買ったひろしは、「お山でござ一週間」というプレゼントを当てた。八月一日、山の中の小さな駅で列車をおりたひろしをまっていたのは、小さな男の子。「わあい、人間のおにいちゃんができたあ！」と言われ…。			
ピロードうさぎ	マージェリィ・ウィリアムズ/ぶん	童話館出版	933/ウ/
ピロードでできたおもちゃのうさぎは、ぼうやおきにいり。よごれて古ぼけてしまったうさぎが、ごみと一緒に燃やされそうになった時、子ども部屋の妖精があらわれて…。心から愛されたおもちゃは、やがて「ほんとうのもの」になる。			
チョコレート病になっちゃった!?	ロバート・K. スミス/作	ポプラ社	933/ス/
毎日チョコレートばかり食べている男の子ヘンリー。とつぜん、体じゅうに茶色のブツブツができて病院に行くと、「世界ではじめてのチョコレート病」だと言われ…。こわくなってにげだしたヘンリーを助けてくれたのは、トラック運転手の黒人のおじいさん。			
夏のねこ	ハワード・ノッツ/作	徳間書店	933/ノ/
いえにあそびにくるねこをだすきになったベン。ずっとねこといっしょにいたいとおもっていたのに、かいぬしがいることがわかり…。夏が終われば町にかえってしまうねこ…。そんな中、とつぜんねこのすがたがきえてしまう。			
ワンホットペンギン	J. リックス/作	文研出版	933/リ/
とんでもない暑さの夏の日、母さんと動物園に行ったフェラン。家に帰って、びっくり！ フェランの上着の内ポケットに、ペンギンがかくれていた。動物園にかえしてきなさいという母さん。でも、ペンギンは、南極に行きたいと言い出して…！			
メロップスのわくわく大冒険 1	トミー・ウンゲラー/えとぶん	評論社	943/ウ/1
ゆかいなブタの一家メロップス。石油をほりあてるためにキャンプ生活をしたり、しずんだ船の中でたからさがしをしたり、地面のわれ目にもぐり地底たんけんをしたり…。ピンチもたくさんあるけれど、冒険のあとは、家でママのおいしい料理がまっている！			
フランシスカとくまのアントン	ヴィルヘルム・トプシュ/作	徳間書店	943/ト/
村はずれの農場でくらす少女フランシスカは、ともだちのくまのアントンと楽しくくらすしていた。ところが、村が山賊におそわれ、村人たちは、アントンをくまの毛皮として山賊に差し出そうとして…。怒るフランシスカをみて、アントンは…。			
おじいちゃんのところ	ヘレン・V.グリフィス/文 ジェームズ・ステイブンソン/絵	童話館出版	E/オ/
はじめておじいちゃんの家に来たジャネット。庭には、いじわるそうな猫や、顔の長いラバがいて、ジャネットはうんざり。だけど、おじいちゃんと星を見上げたり、魚つりをしたりしているうちに、ジャネットの気持ちは少しずつかわって…。			
くまとやまねこ	湯本 香樹実/ぶん 酒井 駒子/え	河出書房新社	E/ウ/
なかよしのことりがしんでしまい、きずついたくま。小さな箱の中に、花びらといっしょにことりを入れて、もちあるくようになる。ある日、バイオリンひきのやまねこと出会ったくま。「きみとこつりのために一曲えんそうさせてくれよ」と言われて…。			
天才ピカソのひみつ	古山 浩一/文・絵	福音館書店	E/テ/
「ピカソたんけん美術館」へやってきた3人の子どもたち。「ピカソの絵って、ほんとはあまりうまくないんじゃないの？」「じゃ、うまい絵というのは、どんな絵？」。なぞとき館長といっしょに、ピカソの絵をみてみよう！ 絵を楽しむコツがわかる！			
たのきゅう 落語絵本	川端 誠/〔作〕	クレヨンハウス	E/ラ/シリーズ
お芝居のとくいな田能村の久平さんは「たのきゅう」とよばれていた。母親が病気になったと手紙で知り、舞台いしょうとかつらもち、家をめざす。山小屋でばけものに出会ってしまい、ちえをしぼり、舞台いしょうをつかい、ばけものをだますことに…！			
六にんの男たち なぜ戦争をするのか?	デイビッド=マッキー/作	偕成社	E/O/ハイ
へいわにくらすことのできる土地をもとめてあるいていた男たち。いい土地を見つけ、せっせと働き。かねもちになってくると、どうぼうがやっこないかとしんばいになり、兵隊をやとった。せっかく兵隊をやとったので、ちかくの農場をのっとり…。			



## 高学年向け★おすすめの本

本のなまえ	書いたひと	出版社	請求記号
青い鳥文庫ができるまで	岩貞 るみこ/作	講談社	020/I/
人気シリーズの新刊を楽しみに待っているこどもたちのために、青い鳥文庫の編集者モモタが奮闘する！ 作家、イラストレーター、校閲、印刷会社、取次、書店…原稿が本になって、あなたの手元に届くまでの長い道のり！			
ピラミッド その歴史と科学	かこ さとし/著	偕成社	242/カ/
ピラミッドは、いつごろ、だれが、どんなふう、なんのためにつくったのか？ ピラミッドを通して、当時の人の死や未来に対する考えた方や、富や幸福についてのおもいが見えてくる。かこさとしさんと、ピラミッド3000年の歴史を科学しよう！			
さかなクンの一魚一会 まいにち夢中な人生!	さかなクン/著	講談社	289/サ/
小学2年生のある日、友達がノートにイタズラ書きしたタコの絵に夢中になったさかなクン。学校の図書室にかけこみ、水の生き物図鑑を借りると、近くのお魚屋さんに向かい、本物のタコを見た！！好きなことをずっと続けてきた、さかなクンの自叙伝。			
「けんぼう」のおはなし	井上 ひさし/原案 武田 美穂/絵	講談社	323/I/
第二次世界大戦後、戦争のおそろしさとかなしさを思い知った日本は、「二度と戦争はしない、武器はもたない」というきまりをつかった。そのきまりを、「けんぼう」という。日本は国を守るために、武器ではなく、国際協力をするという道を選んだ。			
写真絵本国境なき医師団 1	国境なき医師団日本/監修 早乙女 勝元/編	大月書店	329/ツ/1
「国境なき医師団」は、1971年、フランスの医師たちにより造られ、世界19か国に支部を持つ、国際的な民間援助団体である。世界中の助けを求めている人々の所へ、わけへだてなく医療をとどけている。			
アリになった数学者	森田 真生/文 脇阪 克二/絵	福音館書店	410/㊦/
「折ってかぞえる指をもたないアリに、数がわかるだろうか？」と考えていたばくは、雨上がりの朝、露を数えていたという一匹のアリに出会う。「アリの数には、色や輝きがあるの。数はたえずうごいているし、生きている」と教えられ…。			
クジラのおなかからプラスチック	保坂 直紀/著	旬報社	519/ホ/
2018年、タイの海岸に打ち上げられ死んでしまったクジラの胃から、80枚をこえるプラスチックの袋がでてきた。土にうめても海に流れても分解されず自然にはかえらないプラスチック。地球をプラスチックごみだらけにしないために私達にできることは…。			
小惑星探査機「はやぶさ」宇宙の旅	佐藤 真澄/著 渡辺 勝巳/監修	汐文社	538/サ/
小惑星に行ってサンプルを持ち帰るといふ、人類初のミッションを託され、2003年5月に打ち上げられた「はやぶさ」。何度もアクシデントや故障にみまわれながらも旅を続けた「はやぶさ」の、地球帰還までの記録。			
僕のお父さんは東電の社員です 小中学生たちの白熱議論!3・11と働くことの意味	毎日小学生新聞/編 森 達也/著	現代書館	543/㊦/
東京電力福島第一原子力発電所の事故が起き、東電に対する世間の批判の聲が高まるなか、毎日小学生新聞の記事を読んだ小学六年生のゆうだい君は、同紙に意見を寄せた。「僕のお父さんは東電の社員ですー」。			
どうぶつたちへのレクイエム	児玉 小枝/著	日本出版社	645/コ/
著者の児玉さんは一頭の犬との出会いをきっかけに、捨て犬の問題に正面から向き合う覚悟をする。動物収容施設を訪れ、殺処分を待つどうぶつたちの最期の姿を写真に収めた。「今は亡きこの子たちの声なき声が、あなたの心に届きますように」。			
わたしが芸術について語るなら	千住 博/著	ポプラ社	704/㊦/
歌ったり絵を描いて見せたりして、自分の気持ちを人に伝えようとする行為、それが、芸術。そして芸術は、悩んでいる人のためにある。たとえば小説を読んで、その主人公を自分に重ねて感じる事ができたなら、その時、きみはひとりぼっちではない。			
てつがくのライオン	工藤 直子/文 長 新太/絵	復刊ドットコム	726/ワ/
かたつむりから、「ライオンというのは、けもの王で、哲学的なようすをしているものだ」といわれたライオン。「てつがくてきなライオン」をめざして、すわりかたや、顔のかたむけかたを工夫してみたけれど、肩がこってしまい、日も暮れて…。			
岸辺のふたり Father and daughter	マイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット/作	くもん出版	726/ガ/
水平線におかたてボートをこぎだす父、見送るのはまだ幼い少女。季節はめぐり、少女は成長し、友と笑い、愛する人で出会い、母となった。いくつ年を重ねても、帰ってこない父。そして、じゅうぶん年老いた「少女」は、父の待つ場所へ駆けだすー。			

本の名前	書いた人	出版社	請求記号
<b>巖窟王</b> (少年少女世界名作の森)	アレクサンドル・デュマ / 〔著〕	集英社	908/9/15/ ゼツウ
無実の罪を着せられ十四年間牢獄で暮らしたダンテス。牢獄での友人から秘密の財産を託され、海に飛び込み脱獄する。そして別人になりすますと、自分をおとしめた三人の男への復讐を始めた。復讐相手の妻となっていたかつての婚約者に、心が乱され…。			
<b>わたしの苦手なあの子</b>	朝比奈 蓉子 / 作	ポプラ社	913/7/
足の傷あとをからかわれたことがきっかけで、学校へ行けなくなったりサ。転校した先で、油断してしまい、ミヒロに傷あとを見られてしまう。このことは、だれにもひみつにするという約束をした二人の距離は、すれちがいがながらも、近づいていき…。			
<b>ひとりたりない</b>	今村 暁子 / 作	理論社	913/1/
交通事故で姉を亡くした琴乃。あれいらい、家族はみんな無口になり、心はバラバラになってしまった。「おばあちゃん、たすけて…」。こらえきれなくなった琴乃はSOSを伝えた。家族は、こわれやすいガラスのようなもの…。			
<b>精霊の守り人</b>	上橋 菜穂子 / 作	偕成社	913/9/1
新ヨゴ王国の皇子チャグムが川に流されたところを、偶然に助けた女用心棒のバルサ。チャグムには魔物がやどっているという噂があり、実の父である帝に命を狙われているという。チャグムを連れて逃げてくれと妃に頼まれてしまうバルサだったが…。			
<b>ウソがいっぱい</b>	丘 修三 / 作	くもん出版	913/1/
一日三回くらいはウソをついてしまうぼく。お母さんに怒られてなやんでいたら、友達のオカマのおじさんは「世の中はウソだらけ」と言った。そして、「自分にウソをついてはいけない」とも。何が「ほんとう」で、何が「ウソ」なんだろう…？			
<b>ムンジャクンジュは毛虫じゃない</b>	岡田 淳 / 著	偕成社	G913/1/
クロヤマの頂上にだけ咲くめずらしい花を、町の人たちは全部つみとってしまった。すると、クロヤマに毛虫のような不思議な生き物があらわれて、町中のつまれた花を探し出しては食べ始めた。どんどん大きくなる謎の生き物に、大人たちは困惑し…。			
<b>風力鉄道に乗って</b>	斉藤 洋 / 作	理論社	913/9/
塾で模擬テストを受けるために、新宿で中央線に乗ったぼく。だけど、乗り間違えてしまったらしい…。ぼくが乗ったのは、ヨットの原理で動く風力鉄道の列車だった。キツネのような顔をしたおじさんと、ぼくのふしぎな旅がはじまる。			
<b>なみきビプリオバトル・ストーリー [1]</b> 本と4人の深呼吸	赤羽 じゅんこ / 作 松本 聡美 / 作	さ・え・ら書房	913/7/1
「ねえ、ビプリオバトルやらない？」図書館で司書に声をかけられた五年生の修。自分の好きな本のおもしろさを、どれだけ言葉で紹介できるかを競うゲーム。一番多くの票を集めてチャンプ本に選ばれることをめざし、修は出場することに！			
<b>太古の森へ</b>	三輪 裕子 / 作	小峰書店	913/ミ/
クラスでシカトされ、親友にも裏切られた千沙。母と離婚して別々に暮らしている父から、ニュージーランドの森のトレッキングツアーにさそわれた。父との二人旅の時間を楽しみにしていたのに、なぜか、知らない男の子との三人旅になってしまい…。			
<b>ぼくは満員電車で原爆を浴びた</b> 11歳の少年が生きぬいたヒロシマ	米澤 鐵志 / 語り 由井 りょう子 / 文	小学館	916/1/17
1945年8月7日、広島に原子爆弾が落とされた。当時11歳の米澤さんは、爆心地から750メートルの場所を走っていた電車に乗っていた。生き残った者の使命として、五十年以上にわたり被爆体験の「語り部」を続けてきた米澤さんの、あの日の記憶。			
<b>ジュリー</b> 不思議な力をもつ少女	コーラ・テイラー / 作	小学館	933/7/
大切な人の危機を予見できるジュリー。「もっている力を重荷に感じるわね。すばらしい才能だけれど、重荷なのね…。同じ力をもつおばあさんと出会い、とまどいながらも、自分の持つ不思議な力と向き合いはじめるジュリー。			
<b>シャイローがきた夏</b>	フィリス・レイノルズ・ネイラー / 著	あすなる書房	933/ネ/
飼い主にいじめられ、おびえて逃げ出してきた犬と出会った少年マーティ。犬にシャイローという名前をつけ、絶対に守ってやると約束をした。飼い主でも、大人でもないマーティ。それでも、シャイローのために、全力で立ち向かう。			
<b>空からおちてきた男</b>	ジェラルディン・マコックラン / 作	偕成社	933/7/
飛行機の故障で砂漠に墜落した男は、カメラマンだった。手には安物のインスタントカメラ。「カメラなんて見たこともない」という人々の村に迷い込んだ男は、「写真」という魔法を使い、村人たちに奇跡を見せる…！？			
<b>きみの行く道</b>	ドクター・スース / さく・え	河出書房新社	E/キ/
外の世界にむかって どの道に行くか、きめるのは いつだって、きみ。進んだ道の先に待ちうけているのは、いいことばかりではない。道に迷うことも、敵がうろついていることもある。それでも、きみは歩きつづける。今日のこの日は、きみのもの！			
<b>ヘレン・ケラーのかぎりない夢</b> 見る・聞く・話す・読む・書く・学ぶ夢に挑戦した生涯	ドリーン・ラバポート / 文 マット・タヴァレス / 絵	国土社	E/ハ/
高熱を出し、目が見えず、耳も聞こえなくなってしまったヘレン。自分の思いや考えをまわりの人にどうやって伝えたらよいかわからずに苦しんでいた。サリバン先生がやってきて、ヘレンは指文字を覚え、まわりの世界との結びつきを深めて行き…。			